



つながろう

CO・OPアクション情報

2012年2月22日

第13号

◆出会った人たちを 忘れずに



パルシステム連合会
事業本部
副本部長 瀬戸 大作氏

対面供給に通うたびに分かってきたことがあります。それは、私たちが週に1回、人が集う「場」を作っているのだということです。試食をしながら楽しく時間を過ごすのは、昔の宅配のスタイルであり、いわば生協の原点がここにあります。

つい最近まで、この仮設住宅に来ていた野菜売りのトラックが急に来なくなりました。私たちは日々の暮らしを支える生協として、「細く長く」続けていくことが大切だと思っています。

避難している方々が大熊町に帰れる日がいつなのか、それはまだ分かりません。でも、私たちはその日まで皆さんに寄り添っていたい。

参加した職員には「長い間支え続ける体制をつくるためにも、今日出会った人たちのことは絶対に忘れないでほしい」と伝えています。

買い物が不便な皆さんのお役に立ちたい

～パルシステム、仮設住宅での対面供給に協力～



荷物を戸口まで運びながら、おしゃべり。コミュニケーションを大切にしている。

福島県大熊町から数多くの方が避難している会津若松市。パルシステム※では、被災された方々の課題解決をめざす「元気玉プロジェクト」に協力し、特に買い物が不便な仮設住宅4カ所に物資を届ける「対面供給」を昨年末から行なっています。毎週水・木曜日は、パルシステムが被災地に寄贈した2トントラックに、生鮮食品や冷凍食品などをパルシステム福島郡山配送センターで積み込み、会津若松市内の仮設住宅を訪れています。

1月26日、パルシステムの職員14人が現地を訪れ、仮設住宅の集会所で対面供給を行ないました。試食しながら談笑する人々の表情から、この取り組みがよいコミュニケーションの場になっていることが分かります。3歳の息子と一緒に集会所を訪れていた女性は、「雪も多く、買い物にも不自由していたので、ここまで来てくれるのは、本当にありがたいです」と話していました。

※パルシステム連合会と会員生協、関連会社を含めたパルシステムグループ。



力仕事である雪かきにも、パルシステムがお役立ち。

雪かき支援も実施

パルシステムは、対面供給を行なっている仮設住宅において、雪の多い日は、雪かき支援活動も実施。2月2日、職員は、大粒の汗をかきながら、雪かきを行なっていました。パルシステムでは、今後も被災地の復興に向け、さまざまな活動に取り組んでいきます。

◆ タイミングを生かして
お役に立ちたい

みやぎ生協
(石巻) 仲間づくりチーフ
田松 忠明氏

まだ大勢いる“困っている方々”に早く手を差し伸べたいという気持ち、また同じサンネットの仲間であるコープふくしまさんに力添えしたいという気持ちで参りました。

石巻では、仮設住宅を12周ぐらいました。行くたびに生協に加入してくださる方がいるんです。被災された方々のくらしはそのときで環境が変わる。一度断られたとしても、それはまったく必要がないという意味ではないと思います。

だから、こまめに御用聞きのようにお邪魔し続けて、環境が変わった時などお役に立てるタイミングを逃さないという姿勢が大事なのです。

これからも仮設住宅から復興住宅などへの移行など環境は変わります。スピード感を持って活動していきたいですね。

「福島のお役立ち」に東北の生協が集結

2月5日から10日まで、コープ東北サンネット事業連合に加盟するコープあおもり・いわて生協・コープあきた・秋田県北生協・生協共立社・みやぎ生協は、コープふくしまに計22人の職員を送り、仲間づくり活動の支援を行ないました。

福島県では、原発事故の影響で現在も断続的に人の移動が続いています。コープふくしまでは、発災後から県内の避難先で新たな生活を始めた方々に生協としてお役に立てるよう、お声がけを行ってきました。しかし、夏休みを機に小さな子どもがいる家族などの県外移動が加速、宅配の利用者は夏休み期間だけで約1,000人も減ってしまいました。

今回のサンネット加盟生協による支援は、そうした状況のコープふくしまを支え、福島の方に少しでも多くお役立ちをしようという目的で行なわれ、結果として計520人ももの加入者を増やすことができました。(左欄関連記事掲載)



毎日、仲間づくり担当で成果を報告し合い、次の日の活動につなげる。



支援1日目には、コープふくしま専務理事の野中 俊吉氏による放射能の学習会も行なわれた。

商品の供給を増やし、支援をしたい



4種類のほっけを試食。



よりよい商品づくりのため、真剣に意見を出し合う。

1月26日、いわて生協・コープ一関COLZAにて、「アイコープほっけみりん漬けつくってみる会(以下、つくってみる会)」が開催されました。いわて生協のアイコープ商品「ほっけのみりん漬け」の佐勇水産(宮城県石巻市)の生産工場は、東日本大震災の津波により生産不能に陥りましたが、10月上旬に被害の少なかった工場の改修を経て営業を再開しました。いわて生協では、「人気のある商品をさらに良くし、商品の供給を増やしていくことが最大の支援」だとして「つくってみる会」を開催。組合員理事、組合員、いわて生協職員の計15人が、旨みをプラスするために酵母エキスの配合を変えた数種類の試作品を試食し、意見を出し合いました。

佐勇水産はもう1つの工場の年内再開も目指しています。東日本大震災に負けず、組合員・生産者・生協が共に手を取り、復興への歩みを進めています。

【一言メッセージ】

- ・ 福島から他県へ避難している人と、福島にいる人の思いの格差をうめたいです。(福島・Uさん)
- ・ この瞬間も、ボランティアをしている人がいる。私もやらなければと思わされます。(岩手・Kさん)

地域一体となって、被災地の復興を

◆リレー寄稿 見えない恐怖に立ち向かう



郡山医療生協
専務理事 宮田 育治氏

郡山医療生協ではチェルノブイリ視察から学び、坪井病院長を所長に、核害対策室「くわの」を立ち上げ、長期にわたる取り組みの準備を進めています。

取り組む理念は「主権在民」です。キーワードは「情報と教育」、そして「可視化」です。

対策室の活動は、以下の5つです。

- ①情報の収集と発信
- ②放射線防護の学習企画、推進、窓口
- ③放射能に関わる健康相談窓口
- ④食品汚染度測定と体内被ばく測定
- ⑤食生活や健康プログラムの開発

また、この間、1万カ所を超える線量測定、線量マップの作成作成を行ないました。学習会も累計100回以上（参加者7,000人以上）開催し、ひまわり運動の展開、除染活動、子ども保養企画の実施など全国の支援と連帯に支えられ、必死で取り組んできました。

この地に住み続け、福島を取り戻すために。全国の仲間の一層のご支援とご協力をお願いします。

ならコープでは、東日本大震災、2011年9月の台風12号・15号の被災地への継続した支援活動を行なっています。

みやぎ生協、コープふくしまへの移動販売車の提供をはじめ、福島県生協連・福島大学災害復興研究所主催の「福島の子どもの保養プロジェクト」に個人線量計、ベンチのない仮設住宅にベンチ15基を寄贈するなど、被災地に寄り添った支援を行なっています。また、毎月11日を「震災を考える日」としてチャリティイベントや学習会を開催。また、台風の際は、被災地に支援物資などをお届けし、「生協が一番先に来てくれた」と喜ばれました。「みんなで見る夢は必ず実現するものと考えています」。この言葉が語られる、ならコープの被災地支援活動をまとめた動画は、こちらのURLから視聴可能です。



(<http://www.ein-g.co.jp/asp/nara/news.asp?mode=REF&job=LATEST&iid=626>)



コープふくしま移動販売車出発式の様子。



台風の被害を受けた天川村での炊き出し支援隊。

<ひと>

「誰かのために、 えんやこーら」



「えんやこーら」
広報・会計担当 工藤 真弓さん



(えんやこーら岩手支部記録 <http://fly-on-the-wind.seesaa.net/>)

「えんやこーら」は、有志のボランティア団体。いわて生協が行っていた※バスボランティアの常連参加者の中から立ち上がり、現在は火曜を除き、ほぼ毎日、岩手県陸前高田市にて活動を行なっています。活動は、広場作り、仮設店舗の建設など、多岐に渡ります。

継続した支援活動のために陸前高田の仮設住宅に入居が決まった阿部義郎さん（ショベルカーを巧みに操る）をはじめ、毎日片道2時間半かけてボランティアに通っている方、静岡から陸前高田に移り活動をされている方など、さまざまな方が参加されています。

工藤さんは、平日は仕事、休日は陸前高田でボランティア活動をしています。

「私たちのことを待ってくださっている人たちがいる。前向きになつてもらう土台作りができたかと思っています」

最後に、全国の皆さんに伝えたいことを聞くと、ずいぶんと考えた末、「何だろう。言葉にならないですね…」。

工藤さんの目には、復興のために休みなくボランティアを行なう仲間の姿、陸前高田の方々の姿が映っていたのだろう。自分には何ができるか。悩みながらも、仲間たちに支えられ、工藤さんの活動は続いていく。

※バスボランティアは、12月末で一旦終了。

3月再開予定。

【一言メッセージ】

- ・ 来週もまた来てね、と言われると、生協は期待されているんだなと思います。(宮城・Tさん)
- ・ 地元の企業で勤めたいけど、離れたところには仕事がないんです。(岩手・Fさん)

日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」連動企画（奇数号掲載）

フォトルポ 被災地は今

みやぎ生協・仙台ボランティアセンター長 高橋朋子理事×山田省蔵カメラマン

※日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」にご寄稿いただいた組合員理事と一緒に現地を歩き、「被災地」の今を写真でお伝えします。（取材日時：2月15・16日、場所：宮城県仙台市）



©山田省蔵

16日に沖野店で行なわれたふれあい喫茶「ひまつぶし」。この日は、納豆パックなどを使い、ひなまつりの飾りを作成。保健士も参加し、訪れた人と一緒に話す。「『相談会』って名をもった場所には、みんな行きづらい。気軽にみんなで話せる場所をつくることは、とても大切だと思っています」（高橋理事）

震災から11カ月たった、現在の仙台市



©山田省蔵

「仙台はもう復興したと思われるけれど、中心街から外れると、まだ船が転がっていたりしています」。写真は、仙台市若林区荒浜。水がひかない田んぼ、遠くに見えるがれきの山、人はほとんど見当たらない。「同じ仙台でも、被害が大きかった地域とそうでない地域の思いの格差が激しいです」



©山田省蔵

15日、榴岡店では初開催の「ふれあい喫茶」が行なわれた。買い物の途中で、立ち寄る人が多い。「お店での開催は、人も立ち寄りやすく、どんどんこのような企画を増やしていきたいですね」。この日は、社会福祉協議会から視察の方もいらっやっていた。

生協、人、絆

一人では、何もできませんでした

「みんなで一緒にやってきたから、今がある。なので、私が伝えたい今の仙台の姿は、『みんな』の姿なのかなと思います」と高橋理事。「みんな」というのは、みやぎ生協・仙台地域の理事や、エリアリーダー、こ〜ぶ委員、みやぎ生協職員のことだ。この撮影のために、忙しい時間をぬって、多くの人が高橋理事のもとに集まった。「みんな」が集まると笑顔がたえない。「フットワークの軽さ、笑顔、明るさが私たちの強みかな！」（高橋理事）



「みんなで方向性を合わせていれば、何があったって大丈夫！って思えるんです」

「ボランティアも、やれる機会をたくさんつくって置いて、やれるタイミングでやれる人がやっていけたらと思います」



「宮城県の仲間を助けよう、という思いは、メンバー（組合員）みんな強いですね」



「人っていいなって思えるのが、生協です」



「いろいろな支援が全国から届いて、私たちだけではないんだ、と感じています」



「生協は、たくさんの方がつながって支えてくれる組織だと実感します」



「最近、生協の活動を知った社協さんや民生委員さんともつながりができてきています」



「いろんな人との出会いが財産です」

伝えたいのは「感謝」です

「全国の皆さんがいてくださったことに本当に感謝です。これからも一緒にやっていきましょう、そして、これからも見守っててください」（高橋理事）



みやぎ生協理事（みやぎ生協・仙台ボランティアセンター長）
高橋 朋子さん

高橋理事の寄稿文は、日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」にて、ご覧いただけます（<http://shinsai.jccu.coop/contents/013/>）。

◆いわて生協・ひなまつり



展示の一つ、こけしびな。

2月8日から3月4日、いわて生協南昌荘にて「ひなまつり」が行なわれています。期間中は、り災証明書をご提示いただいた方の入園料が無料。江戸時代のものから手作りのひな人形まで、40組を超えるひな人形が展示されています。また仮設住宅の方の手作りのストラップなどを販売する“復興商店”もオープンしています。

◆11日を「復興祈念日」に

コープふくしまは、地元 福島の元気な街づくりに取り組んでいます。

毎月11日は、「いきいきコープ復興応援デー」として地域の皆様と一緒に復興を応援します。

11日の売り上げの一部を地域復興応援として子育て応援や防災などの活動に役立てています。



店舗企画は、店舗職員全員が企画づくりに参加。

コープふくしまでは、復興の祈念をこめて今年2月から来年3月までの毎月11日を「いきいきコープ復興応援デー」とし、復興や防災、県内産農産物に関するさまざまな企画に取り組めます。店舗では、子どもたちが安心して暮らせるように毎月11日の売り上げの1%を除染と子育て応援の基金として市町村への寄付を予定しています。

<復興関連情報一覧>

【岩手県】

いわて生協

●催事での復興支援商品販売 (2/17・19) ●南こうせつコンサート (大船渡リアスホール、2/22) ●「忘れない・伝える・続ける・つながる」パネル展 (アテルイ・コルザ)、タペストリー掲示 (盛岡エリア 6店舗、3/6～12) ●「大震災復興祈念 がんばろう! 岩手」セール (3/8～11)

【宮城県】

みやぎ生協

●「被災地支援・住宅エコポイント」登録事業者として申請受付開始 (1/25～) ●被災地応援ウエブギャラリー展示会 (石巻大橋店、蛇田店、亘理店 2/4～3/4) ●拡大イベント車2台目導入 (2/20) ●名取市美田園の仮設住宅ふれあい喫茶 (仙南 VC と名取西店サークル「方言を語り残そう会」共催、毎月第4土曜) ●県北 VC による仮設住宅の自治会支援 ●坂病院、県南医療生協の協力により仙台・山元町の仮設住宅で健康相談とふれあい喫茶開催 ●クミココンサート (イズミティ 21、3/6)

【福島県】

コープふくしま

●ふれあい喫茶、サロン継続開催

福島県生協連

●福島の子ども保養プロジェクト (毎週末開催)

【茨城県】

茨城県生協連

●復興支援映画上映支援 (2/14・21) ●放射能報道と消費者の課題講演会 (2/21・3/5・6)

【パルシステム連合会】

●会津若松市内の仮設住宅へ買い物・雪かき支援

支援募集情報

- いわて生協：ふれあいサロンで使用する、お菓子 (各地の名産品など) や、ぬりえ、色鉛筆などを募集しています。連絡先は、いわて生協組織本部 中村 弥生さん (019-603-8299 月～土 9:00～18:00) まで。
- みやぎ生協：ふれあい喫茶で使用する、お菓子 (各地の名産品など) を募集しています。連絡先は、みやぎ生協・ボランティアセンター (022-218-5331) まで。
- 食のみやぎ復興ネットワーク：「宮城県漁協志津川支所」に漁船・船外機・フォークリフト・わかめ収穫用コンテナを、「JAいしのまき」に海水淡水化装置を贈るため、上記物品、あるいは、支援金を募集。連絡先は、みやぎ生協 藤田 孝さん (022-772-6141) まで。
- 福島県生協連：「福島の子ども保養プロジェクト」の①スタッフ、②4月以降の大型連休の保養受け入れ先募集。①は、1カ月単位で毎週末参加可能な方を。②のご提案は、企画 (日程、募集対象者、募集人数、スケジュール、参加者負担額等) を明確にした上で、ご連絡ください。連絡先は、福島県生協連 根本 喜代江さん (024-522-5334) まで。(保養の企画、運営、費用は、主催者にご負担いただきます。ご了承ください。)

日本生協連からのお知らせ

岩手・宮城・福島の小中高校の図書館に、被災地の地元書店から購入した図書を寄贈する「学校図書館げんきプロジェクト」が始まりました。日本生協連も後援として参加し、「つなごろう CO・OP アクションくらし応援募金」の一環として各会員生協へ募金を呼びかけます。ご協力、よろしくお願いいたします。



つなごろう CO・OP アクション情報
(隔週発行・次回 3月7日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会 (会員支援本部出版部)
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷 3-2-9-8 コーププラザ11F
Tel: 03-5778-8183 / Fax: 03-5778-8051
action@coop-book.jp

【一言メッセージ】

・避難してきたことを隠して暮らしている人もいます。そういった人に、支援が行き届くようにするにはどうしたらよいか…難しい問題です。(宮城・Sさん)



2012
国際協同組合年